

社会科学研究所が上海社会科学院協同シンポジウム開催

「日・中」構造変容の現状を討議

3月18日、専修大学社会科学研究所は中国上海市で上海社会科学院と共催シンポジウムを行った。日本側からは21人、中国側からは約40人が参加したこのシンポジウムのテーマは「経済・社会の構造変容と諸課題—日本の現状・中国の現状—」。

開幕挨拶を中国側から上海社会科学院の熊月之副院長、日本側から専修大学社会科学研究所の柴田弘捷所長が行ったあと、シンポジウムを四つの小テーマに分け、日中双方から報告者を立てた。

▽第一テーマ「経済・産業構造の変容と企業システム」では、宮崎晃臣所員が「IT／グローバルイゼーションと企業システム」、上海社会科学院経済研究所の周振華副所長が「上海の経済発展と構造調整」を▽第二テーマ「大都市建設と再開発」では、福島義和所員が「日本的ウォーターフロント開発の現実と課題」、華東師範大学の曾鋼教授が「上海市張江ハイテクパーク(南区)の発展計画構想」を▽第三テーマ「階層構造の変容と格差問題」では、柴田弘捷・社研所長が「現代日本の階級・階層・格差問題」、上海社会科学院の廬漢龍氏が「利益格差と社会システムの再構築」を▽第四テーマ「社会福祉問題と社会政策(高齢者問題を中心に)」では、唐鎌直義所員が「日本における高齢者福祉政策の現状と課題」、復旦大学の彭希哲教授が「中国における高齢化社会と社会福祉制度の再構築」を、それぞれ報告した。

司会は鶴田俊正参与、鄧偉志上海大学教授、コメンテーターを平尾光司所員、内田弘所員、および上海改革発展委員会総合研究所副所長の閻加林氏と華東師範大学教授の桂世勛氏が担当した。

シンポジウムの翌日からは、上海豫園商城服務有限公司、日本人の多く住む長寧区虹橋街道榮華住民委員会、上海松下プラズマ工場、川崎市とも関係の深い上海産業移転諮問センターなどを訪問し、変化する上海を多面的に見聞して、シンポジウムとともに充実した調査研究旅行となった。

(村上 俊介)

商学部・首藤ゼミ

第6回「日経STOCKリーグ」で部門賞 着実にステップアップ

4チーム参加、入選も

中・高・大学生のための株式学習コンテスト「第6回日経STOCKリーグ」において、首藤昭信商学部助教授のゼミ生5人(増田佳広さん・中村和喜さん・金子哲也さん・石田有子さん・渡辺美紀さん)が763チーム参加の大学部門で部門賞を受賞。同ゼミからは4チームが参加、ほかに1チームが入選を果たした(4月24日付、日本経済新聞に詳報)。



▲表彰状を手に喜びのゼミ生たち(前列中央が首藤助教授)

部門賞チームのレポートテーマは「はじめのIPO(いっぽ)～企業の誕生から株主重視企業に変わるまで～」。04年4月から05年3月までに上場した173社を対象に11の項目を用いて株主重視企業を選別。さらに特に成長する可能性が高い企業を前記以外の要因を用いて分析し、最終的に10の銘柄を選択した。既存の企業ではなく、新規公開企業(Initial Public Offerings Firms以下IPO企業)に着目したのは「真の株主重視企業を探せると考えたこと。日本経済が、従来の日本型経営から米国型の市場経済に移行していること。IPO企業が年々増加していることなどから投資戦略の有効性を判断しました」とチームリーダーの増田さん。2チームが入選した前回の経験から首藤助教授は「早い時期からの準備が大切」と夏期休暇中のゼミ合宿からテーマ設定を始めた。また、入賞した先輩たちがデータの収集方法などを教えるなど、ゼミ内の連携も好成績の要因となった。



▲表彰式に臨むゼミ生たち(日経ホールで)

首藤助教授の口癖は、「どんなにデータが立派でも、文章で表現した時に理解してもらえなければ意味がない」。現在就職活動中のメンバーは「おかげでエントリーシートの文章にもこだわるようになりました」と語る。

時には意見のぶつかり合いもあったというが、「妥協せずに仲間と協力してやり遂げることの大切さを知った」「企業への問い合わせで、ビジネスマナーの大切さを感じた」と、コンテスト参加はさまざまな効果をもたらしてくれた。彼らの経験が後輩たちに引き継がれていくことだろう。

※入選チームレポート「コーポレート・レピュテーション」=寺本公さん・定兼良平さん・鷹合正駿さん・石毛美穂さん・小池麻奈さん

専大玉名高・吹奏楽部

「くまもと県民文化賞」を受賞

4年連続で全国大会出場

専修大学玉名高校吹奏楽部は、第16回くまもと県民文化賞（年間文化活動部門）を受賞した。

同賞は地域の文化の振興に貢献する活動を行った団体に対して、その功績を称えると共に今後の活動を奨励し知事が表彰する。



▲潮谷熊本県知事(右)から表彰される代表の山口晃紀さん

同高吹奏楽部は、マーチングバンド・バトントワーリング全国大会に第30回(平成14年度)から4年連続出場。第32回大会はマーチングバンド部門で編成別最優秀賞第1位となった。昨年は熊本県の姉妹都市である米モンタナ州の招待で海外遠征するなど国内外における素晴らしい演奏活動が高く評価された。

授賞式は3月24日、熊本県庁知事応接室で行われ、潮谷義子知事から部員代表の山口晃紀部長(3年)に表彰状と副賞が授与された。